

そよげ風

山口市立小郡小学校学校だより12月号

平成24年度No.8 (通算37号)

平成24年11月26日

夢を追うということ

校長 藤田 辰夫

中国地区小学校長会が岡山県倉敷市であり、そこでの、筑波大学大学院の山海嘉之氏の講演が印象に残りました。山海氏は、世界初のロボットスーツ「HAL」を開発し、介護・福祉分野にいち早く実用ロボットを送り込もうとしている研究開発者です。

『HALは、人間を支援していくことに焦点を当てています。ヒトの身体のしくみを利用し、神経の信号を読み取ってロボットに同じ動きをさせることができるロボットスーツです。HALを健常者が着用すると、片腕で40kg程度は軽く持ち上げることができ、また、筋力の弱った患者が着用することで、自律動作の支援やリハビリ支援にも用いることができるなど、実用化に向けた実験・開発が進んでいる。』と話し、高齢化の進展とともに、高福祉が求められる時代が到来し、障害をもった方や高齢者の方、さらには医療従事者の方から、「もう一度、自分の足で動きたい」、「何とか今よりも身体機能を改善したい」、「自宅でリハビリをしてみたい」、「患者さんの生活の質を高めてあげたい」といった要望に応え研究開発し、今なお、改良にも取り組んでいます。

山海氏はこのような世界的な科学者ですが、その原点は、小学生の時に、アイザック・アシモフの「私はロボット」を読んでロボットに興味を持ち、石ノ森章太郎の「サイボーグ009」にも影響を受け、科学者になりたいという夢を追い続けた結果であると話し、『ふるさと岡山で自然のなかで遊んだことや興味をもったことの実験を繰り返した日々、そしてその好きなことを認め、応援してくれた両親などが、ベースになっている。とにかく、好きなことをとことんやりなさい、好きなことを子どものうちにみつける、それに尽きるのではないのでしょうか。それが見つければ自然に勉強するようにもなります。』と話しました。

そして、小学校の時に学んだ「夢や情熱を持ち、人を思いやる心」がその後の人生を形作っており、「HAL」を開発した原点でもある。小学校時代に興味関心を持ったことを追求することが夢を実現することにつながる。と話しました。

この話から、初等教育の大切さをあらためて痛感しました。そして、子どもたちには、たくさんの本を読ませ、多くの人たちと関わらせ、大きな視野で物事をとらえ、たくましく育てていかなければならないと思いました。学校教育・家庭教育で、今後取り組む示唆をいただいたと思います。

11月を振り返る

校内音楽会



11月7日（水）、多数の保護者参観のもと、校内音楽会を開催いたしました。この日に向けて、朝や昼休みにも練習する子どもたちの姿が見られたのはうれしいことでした。

また、子どもたちは、各学年の演奏を最後まで立派な態度で聴くことができました。

音楽主任は次のことを述べています。

「小郡小学校は音楽の好きな子どもたちが多く、音楽会だけでなく、普段のあいさつ、音読、返事などで歌の声をイメージした発音を意識し

ていくともっとリラックスした状態で歌えるようになる。日々、歌声のある学校にしていきたい。」。音楽を通して、心豊かな子どもたちを育てていきたいと思えます。

1年校外学習

11月9日（金）に1年生がとても楽しみにしていた校外学習が実施されました。サファリランド、秋吉台上 長者ヶ森、カルストロードへのバスを使っての学習は子どもたちにとって魅力いっぱいの学習となりました。

ここに、児童の作文を紹介します。「校がいがくしゅうでたくさんのどうぶつが見れてよかったです。とくにモルモットがかわいかったです。ぞうやキリンやロバなどいろいろなどうぶつとであえてよかったです。わたしは、またこれらいいなとおもっています。おてんきもよくて、ともだちやどうぶつとたくさんあそべてとてもたのしいにちでした」。1年学年主任は次のような感想を話しました。「動物にえさをやったり、動物をだっこしたり、身近に触らせてもらったりして貴重な体験をすることができた。これらの体験はきっとこれからの生活に役立つでしょう」。楽しさ満杯の校外学習となりました。



来年度新1年生対象 就学時健康診断



来年度入学予定の85名の子どもたちが、11月13日（火）に就学時健康診断のために来校しました。

就学時健康診断は、学校保健安全法によって義務づけられている健康診断です。診断の結果、病気等が見付かったときには専門医の治療を受け、健康な状態で4月を迎えてほしいという主旨で行われています。また、就学について質問等があるときには、相談にも乗るようにしています。

当日は、5年生が来年度新入学児童のお世話をしっかりとしてくれました。

保護者は、ランチルームで就学前のしつけについて、元中学校長 國弘 洋子先生の講演を聞きました。現在大人になっている当時の中学生はこんな振り返りをしています。

「中2中3の時には分からなかったが今だったらわかる」ということから、学びにはタイミングがあること。「一人の人間として接すること（信頼してあげること）」「つまずいても立ち上がる強い子を作ることが大事であること」等、子育てのヒントを多くいただきました。保護者の方々も参考になることの多い講演でした。



2年生の生活科学習

2年生は「町たんけん」の学習で、小郡地域交流センター、総合支所、図書館、保健センターを訪問しました。

子どもたちは4～5人のグループに分かれ、施設や仕事の様子を見学し、その後、質問などをしていました。1時間半という限られた時間でしたが、子どもたちは積極的に学習をしました。お忙しい中、子どもたちが何度も繰り返す質問にもていねいにお答えいただきました職員の方々、ありがとうございました。

ここに児童の作文を紹介します。「今日、町たんけんでごおりとしょかんに行きました。としょかんの方に『全部で何さつの本がありますか』と聞いたら、『1かい2かい合わせて64000さつです』と教えてもらいました。

とてもびっくりしました。家に帰ってお母さんにいっぱいお話をしました。とても楽しかったです。」



てくる全校練習初日となりました。

大会当日、時間がありましたら、ぜひ、ご来校いただき、懸命に走る姿にご声援をよろしく願いいたします。

中間時間のかけ足走始まる

12月4日（火）開催予定の校内持久走大会に向けて、持久走の全校練習が11月12日（月）から始まりました。

持久走は、心肺機能を高めるとともに、がんばり抜く心を育成するために実施するものです。

「大会で今年は〇位をめざすぞ。」「タイムは〇分〇秒をめざすぞ。」と子どもたちの目標はそれぞれ違いますが、やる気の伝わっ

外回り清掃

校庭の樹木は私たちの目に安らぎと潤いを与えてくれるものです。秋の校庭を美しく彩った樹木も落葉の時期を迎えました。

11月20日（火）、いつもの清掃時間よりは、15分時間を長くとして「外回り清掃」を実施しました。

子どもたちは、落ち葉やゴミ集め、教材園や持久走走路の整備等、汗を流しながら一生懸命に作業を行いました。

落ち葉を腐葉土にしたり、畑を整備したりして、次の畑作りの準備もできました。学校では、奉仕作業等を通して、環境を整えるとともに、人のために尽くすことの大切さを教えています。



< 12月の行事予定 >

< 1月の行事予定 >

日	曜	行 事 等	日	曜	行 事 等
3	月	P T A あいさつ運動 全校漢字大会	1	火	元日
4	火	校内持久走大会(予備日は6日)	8	火	始業式 給食開始
6	木	集金日(給食費・学年費) スクール カウンセラー・A L T 来校 学校運営協議会	10	木	給食集金日
7	金	児童集会(3校時) クリスマス チャリティ公演(特別支援学級)	14	月	成人の日
11	火	読み聞かせ	15	火	にこにこタイム
13	木	こころの劇場(6年生) スクール カウンセラー来校	17	木	参観日 人権教育講演会
14	金	A L T 来校 短縮時程	18	金	避難訓練
17	月	短縮時程	21	月	委員会活動
19	水	学期末個人懇談会(1日目)	24	木	学年集金日
20	木	学期末個人懇談会(2日目)	28	月	クラブ活動
21	金	終業式	31	木	学友区児童会 全校地区別下校
23	日	天皇誕生日			
24	月	振替休日			
25	火	冬季休業開始(～1月7日)			
29	土	年末年始の休日(～1月3日)			

「**山口市福祉教育推進協力校**」としての取組

小郡小学校は平成24年度・25年度、山口市福祉教育推進協力校として福祉教育を推進しています。今までもP T Aのご協力を得ながら福祉教育を推進してきたことを有り難く思っています。福祉の心を小学校期から育成することは非常に価値のあることだと考えています。

人間誰でも「幸せになりたい、幸福な人生を送りたい」という願いをもっています。その願いを実現するために、障害のある人たちの苦労や努力を理解し、障害のある人たちに寄り添うことの大切さや共に生きていくことの大切さを身につけることが、福祉教育の原点だと考えています。

小郡小学校では、そのような基本的な考え方に立って、福祉教育を実施しています。特に、心身ともに大きく成長する4年生で次のような学習を重点的に行っています。

「アイマスク体験、点字学習、手話学習、車いす体験」等。体験的な学習を通して、障害のある人たちの工夫や努力を理解し、少しでも寄り添っていくことができるようにという思いをもって指導しました。実際に体験することによって、子どもたちは、「こんなことをしてはいけないのだな。」とか逆に「こんなことをしたら喜ばれるんだな。」ということを実感することができました。この体験は、きっと実生活の中でも生かされるものだと期待しています。

ここに児童の感想を紹介します。

今日、車いす体験をしました。私はかい助する人、かい助される人、手伝う人の3つを体験しました。

はじめに手伝う人をしました。かい助する人が後ろのキャスターを上げられなかったら手伝うなどのことをしました。

次にかい助する人をしました。かい助する人は、かい助される人の安全第一です。声かけをしたり、キャスターを上げたりで大変です。でも、かい助するということは、人の命をあずかるということでもあるので、さらにさらに大変な仕事というのを初めて知りました。

最後にかい助される人をしました。私はかい助される人になる前、「きっと全然こわくないだろう」と思っていたけど、実際にかい助される人になって運転されると、坂道やスロープではとてもこわくてこわくてたまりませんでした。

私はこのことから、私のおばあちゃんは車いすにのっているんだけど、今度おばあちゃんのかい助をするとき、おばあちゃんがこわくないようにしようと思います。

また、4年学年主任は次のようなことを述べています。「声かけやジェスチャーで伝える大切さ、要するにコミュニケーションをとることの大切さを子どもたちは学習しました。また、自分が手助けできるときには、手助けのできる子どもたちが増えることを期待したい」。

子どもたちにとって福祉教育は貴重な学習の場となっています。今後とも福祉教育を充実させることによって、子どもたちの思いやりの心、やさしい心をさらに育てていきたいと思っています。

文責 水野 昭(教頭)